

「新しい公益法人制度対話フォーラム」

【概要】

1 開催概要

- 開催日時：令和6年12月19日（木）13:00～15:30
- 開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟小ホール
（東京都渋谷区代々木神園町3-1）
- 主催：内閣府
- 参加者：226名（登壇者・運営者を除く）

2 内容

- (1) 開会挨拶 三原じゅん子 内閣府特命担当大臣（ビデオメッセージ）



- (2) 基調報告 高角 健志 内閣府公益認定等委員会事務局長
/大臣官房公益法人行政担当室長

【報告内容】

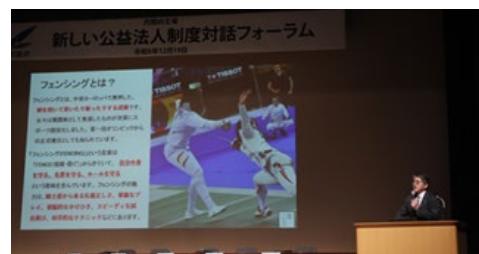
新しい公益法人制度が目指すもの

- ・公益法人制度、何が変わるのか？
 - より自由な資金の活用が可能
 - より迅速な事業展開が可能
 - 効果的な事後チェック
- ・新制度のスタートに向けて
 - 令和7年4月から施行（事項毎に適用開始時期が異なる）
- ・新制度は、何を指すか？
 - 民間公益活動の活性化



- (3) 講演 千田 健一 公益社団法人日本フェンシング協会会長
公益財団法人宮城県スポーツ協会会長

「オリンピック躍進の背景にある協会改革
～日本フェンシングはここまで躍進できたのか～」



(4) パネル・ディスカッション

①参加者

【パネリスト】（五十音順）

いまい ゆうすけ
今井 悠介

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表理事



しのづか はじめ
篠塚 肇

公益社団法人経済同友会常務理事



ちだ けんいち
千田 健一

公益社団法人日本フェンシング協会会長
公益財団法人宮城県スポーツ協会会長



なかむら しげき
中村 茂樹

公益財団法人 SOMPO環境財団専務理事



もちづき まさき
望月 正樹

公益社団法人日本オーケストラ連盟専務理事
公益社団法人日本芸能実演家団体協議会理事



【コーディネーター】

いしづ としえ
石津 寿恵

明治大学副学長（学務担当）
経営学部教授



②自由討議

<テーマ>

- ・公益法人の事業の発展につながる創意工夫
- ・公益法人は社会からの期待にどう応えていくべきか
- ・公益法人の担うべき役割、今後の可能性

(5) 閉 会

3 パネリスト等からの主な意見

- ・ 今回の制度改正で法人自治が重視される形となったことは非常にありがたい。法人の自主性に任せるのであれば信頼の確保も必要。すなわちガバナンス強化という話にもつながってくるので、正しい方向に改革を進めていただいていると思っている。
- ・ 中期的収支均衡や公益目的事業継続予備財産などにより、コロナ禍のような突発的な事態にも対応できるようになり、長期的かつ安定的な事業運営につながる。中期的な展望を念頭において収支のやりくりができるようになるため、今回の制度改正は好意的に捉えている。
- ・ 寄付をしてもらえるようになるには、事業の評価や検証をしっかりと行なうこと、きちんと財務的報告を行い、説明責任を果たしていくことが重要。
- ・ 企業財団としては、法人の活動の認知向上に向けて、関連企業の従業員による寄付活動等を通じて、社会課題に関心を持つ、社会貢献していくことができるような仕組みを検討しており、こうした活動により法人の事業運営を担う人材育成にもつながるものと考えている。
- ・ 社会からの信頼獲得に向けてはガバナンスの充実や透明性の確保が重要。外部理事などの外部性だけでなく、年齢、性別、職業、専門領域等の多様性を踏まえることで、様々な意見を法人運営に取り入れていくことができると考える。
- ・ 社会からの期待に応えるには、ニーズの把握と実現に向けたスピード感が必要だが、新しい事業のために行政手続きが必要となると二の足を踏んでしまっていた。今回の制度改正で行政手続きが簡素・合理化されることによって新しい事業をやりやすくなるのではないか。公益法人の事業が柔軟にかつ機動的に改廃できるような公益法人制度であるとよい。
- ・ 営利法人と同様の利益の考え方を公益法人に対して求めるのではなく、公益法人が担っている伝統文化の継承などの役割も含めて考える必要がある。公益法人の役割と民間企業での役割、それぞれの事業の特徴をどう活かして、どう連携を図っていくか今後の重要な課題ではないか。地方では、公益法人が様々なスポーツ系団体との調整役としての役割も大事な使命になっていくのではないか。
- ・ 公益法人が率先して新しい取組みの事業モデル（見本）を示すことが大事。事業モデルが他の主体にも横展開されることで受益者の拡大につながる。

（文責：内閣府大臣官房公益法人行政担当室）

